

報道関係各位

石油資源開発株式会社  
日本ガスライン株式会社  
Tel: 03-6268-7110 (広報代表)  
<https://www.iapex.co.jp/contact/>

## 日本ガスラインと液化CO<sub>2</sub>内航船輸送及び港湾整備に係る共同検討の実施に合意

石油資源開発株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：藤田 昌宏、以下「当社」）と日本ガスライン株式会社（本社：愛媛県松山市、代表取締役社長：邑松 泰宏、以下「NGL」）は、液化CO<sub>2</sub>内航船輸送及び港湾整備によるCCS (Carbon dioxide Capture and Storage: 二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の回収・貯留) およびCCUS (Carbon dioxide Capture, Utilization, and Storage: CO<sub>2</sub>の回収・有効活用・貯留) の将来的な社会実装を目指した共同検討の実施に合意する覚書を11月に締結しました。

当社は、2050年までのカーボンニュートラル対応の方向性をとりまとめた「JAPEX2050」において、CCS / CCUSの早期の実用化と事業化に注力して取り組むことを掲げています。CCS / CCUSの社会実装のためには、CO<sub>2</sub>の排出密集地から国内外の遠方貯留適地への効率的な液化CO<sub>2</sub>輸送の実現、最適なCCS / CCUSバリューチェーンの構築が必要であり、この度、60年以上の高圧ガス海上輸送の歴史を持つNGLと共同検討を実施することとなりました。

本共同検討では、NGLがこれまで高圧ガスの内航船運航事業で培った豊富な知見と、当社が石油・天然ガスE&P事業 (Exploration & Production: 石油・天然ガスの探鉱・開発・生産) や国内のインフラ・ユーティリティ事業 (Infrastructure / Utility: 天然ガスやLNGの安定供給等) で培った経験をもとに、日本全国の主要港湾を繋ぐ内航船による液化CO<sub>2</sub>輸送の可能性およびその効率性の検討、さらに将来的な液化CO<sub>2</sub>内航船輸送の社会実装・事業化・規模拡大に向けた主要課題の洗い出しを行います。

当社は、国内外におけるカーボンニュートラル社会実現を目指した課題の解決や事業の実現により、時代に合ったさまざまなエネルギーを供給する「総合エネルギー企業」としての成長と企業価値のさらなる向上を引き続き目指してまいります。

【本共同検討イメージ】



以上

###